

e-黒板研究会*とは

平成 15 年 9 月に、清水康敬氏を座長として C E C が設立した調査・研究グループ。

平成 16 年度の活動目的：

ポスト 2005 年の「教育情報化」に向けて、その有効性が最も期待される汎用的な教具である「電子情報ボード」と最も基本的な教材である「デジタル教科書」の活用方法、およびその機能・仕様のあるべき要件調査、有効性・教育効果に関する調査、インターフェース等の開発要件等を調査・研究し、教室での有効かつ日常的な IT 活用の実現に向けた標準化やガイドラインの策定を行うことを目的とする。

報告書の種類（成果物）：

- (1) 「電子情報ボードの有効な活用方法に関する調査研究報告書」
【ガイドブック】 ([3.1](#))
- (2) 「電子情報ボードの仕様・機能等に関する調査研究報告書」
【ガイドライン】 ([B \(付録 2\) -1](#))
- (3) 「教科書を中心としたデジタル教材開発のためのガイドライン」
([B \(付録 2\) -2](#))

活動概要：[\(4.1 \)](#)

- (1) e-黒板と e-教科書を活用した実践授業の実施とその支援（ 第 3 章）
- (2) インタビューおよびアンケートによる調査 ([4.2](#))
- (3) 海外調査（英国調査） ([4.3](#))
- (3) e-黒板研究会のホームページの開設と運用
<http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban/index.html>
- (4) メールニュース（e-黒板ニュースの発行）による情報提供・情報共有
http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban/eknews_2004.html

注*（名称について）：電子情報ボードをユーザニーズに応じて進化させつつ、教室において「黒板のように使う」「黒板の一部に置き換えたい」という願いを込めて、「e-黒板研究会」とした。（2003 年 9 月）